

# 活動レポート

## 道東技術士委員会

文責：道東技術士委員会幹事長 上野博司

### 第 70 回総会・講演会を開催

#### 1. はじめに

道東技術士委員会では当会主催の総会・講演会の他に寒地土研や釧路高専との共催による講演会・フォーラムを開催しています。

今回の活動レポートは、12月に開催しました第70回総会・講演会及び釧路高専の技術講演会について報告いたします。

#### 2. 講演会

第70回総会にあわせて、講演会を行いました。

○演題：福島県飯舘村における居久根の空中放射線量の実態

○講師：帯広畜産大学 教授 辻 修 氏

講師の辻氏は、地域環境学研究部門・地域環境工学分野の教授で、農業土木学・農地保全工学を専門としておられ、今回は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震に伴い発生した原発事故により放射能汚染の被害を受けた、福島県飯舘村における屋敷林の居久根(いぐね)の現状について講演をしていただきました。



写真-1 講師の辻氏

#### ① 飯舘村の現状

福島県飯舘村は、原発から20km以上離れてい

るにもかかわらず、事故発生時の気象の影響などにより放射線量が大きく上昇し、除線作業が進むなかにおいても、その値は50mSv/y以上で帰還困難地域となっている。

#### ② 居久根について

居久根の主構成材である杉の葉について、枯葉トラップにより採取し計測したところ、本年6月までの4回の調査では放射性セシウム濃度が16万Bq/kgを超過しており、葉に付着したセシウムはまだ残留している。

一般に杉の葉の更新は3年といわれているが、高緯度になれば更新期間は6年程度と遅くなるものと考えられる。

また、仮設として、樹木が落葉に付着したセシウムをカリウムと間違えて吸収しているということも考えられ、今後の調査研究が必要である。



写真-2 講演会風景

#### ③ まとめ

農家家屋に隣接する居久根は、表土はぎ取りによる除線を行うことで空中放射線量が低減できることを確認できた。ただし、現在の基準では、居久根は山林扱いとなり家屋から10mは伐採を含めた除線が行われているが、それ以外は下草、落葉のみの除去

とされている。

農村生活の一部ともいえる里山の役目も果たす  
久根の除線方法のあり方について再考が必要である。

### 3. 第70回総会

○日時：平成26年12月5日(金)午後6時～

○場所：北海道ホテル

○出席者：27名(技術士26名、技術士補1名)

講演会に続いて、平成26年度第2回総会を開催しました。

冒頭、工藤代表幹事は講演内容を念頭に、放射能汚染の除線問題は出来るだけ早期の解決を期待している。

技術士会としても福島復興には放射性物質に関する情報提供などで復興支援を行っているが、報道として伝わってこないのは残念で、今後とも技術士の認知度を向上することが必要であると挨拶しました。

工藤代表幹事の挨拶に続き、紅葉副代表幹事より11月28日に行われた北海道本部の第2回地方委員会の議事内容についての報告がありました。

### 4. 懇親会

総会後は、帯広開発建設部長の板倉技術士の乾杯の音頭で懇親会に入りました。



写真-3 懇親会風景

懇親会では、名刺交換や近況について報告しあうなど、和やかに歓談しました。

会の最後は、当会副代表幹事の紅葉技術士が恒例の俵持ち上げ型の万歳で締めました。

### 5. 釧路高専技術講演会

釧路高専との共同開催で、技術講演会を行いました。

○日時：平成26年11月28日(金)

午後2時～午後3時30分

○場所：釧路工業高等専門学校 1F 大講義室

○出席者：67名

講演1：「FRPシートを用いたRC構造物の補修補強工法の開発と研究」

講演者：釧路工業高等専門学校 校長

工学博士 岸 徳光 氏

講演2：「道路防災の事例と考察」

講演者：国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部

釧路道路事務所 所長 高橋 丞二 氏



写真-4 技術講演会風景

### 6. おわりに

今回の講演会では、東北地方太平洋沖地震から3年9月がたち復興が進む中においても、放射能の除線がいかに難しい事であるかを改めて認識する機会になりました。

当会では今後とも、講演会や現場見学会などを開催していきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士委員会の活動レポートとさせていただきます。